

教科・科目		対象学年	単位数	教科書
国語・言語文化		1	2	三省堂・新 言語文化
科目の概要と目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な見方、考え方、感じ方にふれ、物事を総合的に捉えることのできる、幅広い人間性、豊かな感性と判断力を育てる。</li> <li>自ら学び自ら考える意欲を喚起して、主体的に生きてゆく力をはぐくみ、国語の力を育成する。</li> <li>言語事項を総合的に学習し、国語に関する知識を深めることにより、国語に対する関心を高め、国際社会に生きる国語の力を獲得させる。</li> </ul>		
学期	単元	学習内容	到達度目標	
1 学 期	1 読書は生きる力 ・枕草子「春はあけぼの／ありがたきもの」 ・故事二編「虎の威を借り／朝三暮四」 ・ゴール ・フォトレポートに表す	<ul style="list-style-type: none"> <li>筆者が「をかし/ありがたし」として捉えている事柄や筆者独自のものの見方について考える。</li> <li>傍訳を参考にしながら大意を捉える。</li> <li>登場人物の言動から感じられる人物像を捉え、文章の結末について考える。</li> <li>春に関する言葉や風物詩、伝統行事やイベントなどの題材を調べ、思ったことや写真などを入れてフォトレポートを作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。</li> <li>作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。</li> <li>文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解することができる。</li> <li>常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。</li> </ul>	
2 学 期	2 物語は無限に展開する ・沙石集「児の飴食ひたること」 ・説苑「景公之馬」 ・羅生門 ・「短歌・俳句に表す」	<ul style="list-style-type: none"> <li>「坊主」の発言や「児」の考えに着目し、人物設定を捉える。</li> <li>「景公」が「晏子」の発言から何を読み取ったか、まとめる。</li> <li>場面設定や「下人」の考えの変化とそのきっかけとなったできごとについて考える。</li> <li>作品を読み、感じたことや思ったこと、発見したことなどを書きとめる。表現を工夫して、短歌や俳句を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。</li> <li>文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。</li> <li>文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について理解することができる。</li> <li>自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にすることができる。</li> </ul>	

<p>3 学 期</p>	<p>3 言葉は時空をかけめぐる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊勢物語「芥川／筒井筒」</li> <li>・和歌十首「小倉百人一首より」</li> <li>・短歌七首「近代・現代の短歌」</li> <li>・野焼</li> <li>・「詩に表す」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音読し、大意を捉え、「男」と「女」の心情の変化を考える。</li> <li>・十首の和歌に表現された内容を、自分の言葉で簡潔にまとめる。</li> <li>・七首の短歌から一首を選び、歌が詠まれた背景や心情を想像しながら、物語を書く。</li> <li>・「野焼」に対する筆者の見方の変化をまとめる。</li> <li>・効果的に伝わる語句や表現技法を用いながら、詩を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解することができる。</li> <li>・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解することができる。</li> <li>・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解することができる。</li> <li>・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。</li> <li>・自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫することができる。</li> </ul>
----------------------	--	--	--